

# 時間に「いのち」を与えるリハビリテーション<sup>1</sup>

進藤伸一

はじめに

今日は、リハビリテーション医学・医療の入門的な話ではなく、リハビリテーションのめざすもの、リハビリテーションの理念についてお話したいと思います。

その理念をお話しするうえで、表題の“時間に「いのち」を与える”という文言は、大切なキーワードです。リハビリテーション医学の父といわれるハワード・ラスク博士（1901-1989年、ニューヨーク大学ラスク・リハビリテーション医学研究所）は、治療医学とリハビリテーション医学の違いについて、先人の言葉を引用して説明しました。その先人の言葉が、To add not only years to life, but life to yearsで、日本では次のように意識され、一般に知られています。

リハビリテーションとは、命に時間を継ぎ足すことではなく、時間に命を与えることである。

治療医学は「命に時間を継ぎ足す」、つまり延命が主な目標だが、継ぎ足された命が本人の望むような命ではなく、たとえば障害が残ってしまった場合、リハビリテーションはその継ぎ足された時間に新たな命を与えることなのだ、ということです。この命はlifeの訳ですが、lifeには生命、生活、人生などいろいろな意味があるので、私はこれらを含めたものとして「いのち」と書いています。

今日は、表題をテーマに3つのことをお話したいと思っています。1つは、リハビリテーションはこれまで「いのち」